

くらしの危険

Number

382

ヘアアイロンによる 子どものやけどに注意!



医療機関ネットワークには、2019年度以降の約5年間に**43件**のヘアアイロンによるやけどの事故情報が寄せられており、その内、**約7割が0歳～2歳の子どもの**事例でした。

事故の多くは、**保護者等が使用したヘアアイロンを子どもが触ってしまうこと**によってやけどを負った事例でした。

ヘアアイロンは電源を入れると**瞬時に高温になり**、電源を切った後でも**すぐに温度は下がりません**。使用中及び使用後のヘアアイロンは**子どもが近づかない場所**に置くようにしましょう。



※写真の商品は事故事例とは関係ありません。



独立行政法人
国民生活センター

National Consumer Affairs Center of Japan



こんな事故が起きています

【事例 1】

使用後のヘアアイロンを浴室のドアのタオル掛けに吊るしていたところ、子どもの手にあたってやけどを負った。ヘアアイロンは180℃で使用後、電源を切ってから5分以内であった。左手背に水疱を認めていた。

(事故発生年月：2024年1月、2歳6か月、男児)

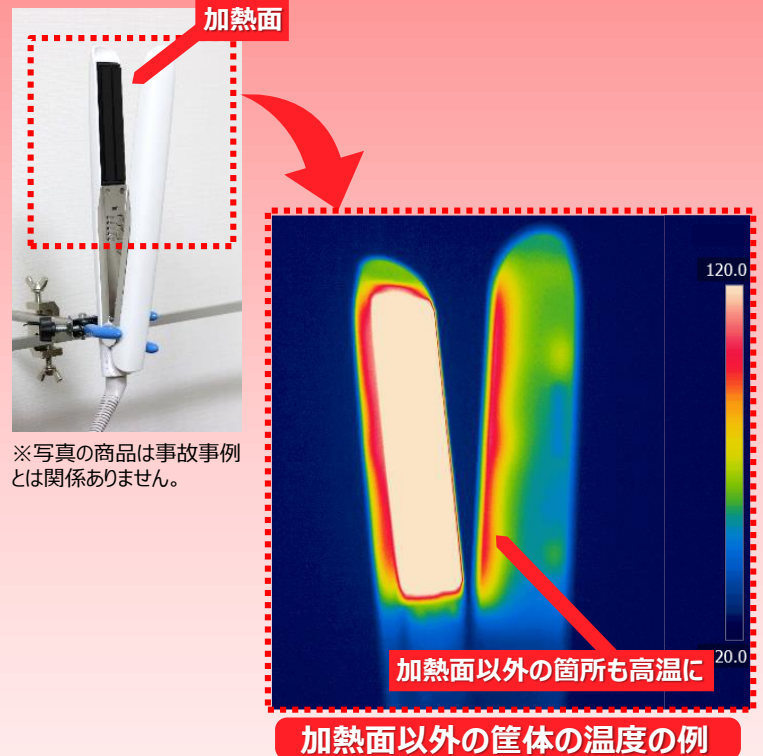
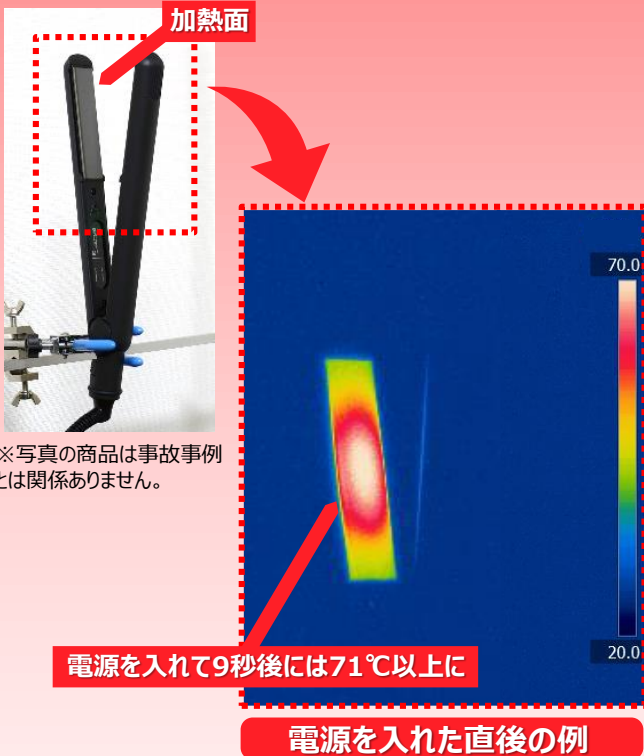
【事例 2】

電源が入った状態のヘアアイロンを洗面台の上に置いていた。歯磨き中の母の横にいた子どもがコードを引っ張り、ヘアアイロンが子どもの腕に落下した。左手背、左前腕をやけどした。

(事故発生年月：2023年11月、1歳6か月、男児)

ヘアアイロンの温度を測ったところ・・・

- 電源を入れて約4秒～64秒でやけどが生じ得る温度(71℃)に達し、電源を切った後に71℃以下に冷えるまでに平均で10分以上かかりました。
- 多くの銘柄で加熱面以外の筐体の温度は71℃以上に上昇。



消費者へのアドバイス

- ✓ ヘアアイロンは子どもが近づかない場所に置きましょう。
- ✓ ヘアアイロンのプレートやパイプは瞬時に高温になります。加熱面以外も高温になるため、取扱いには十分注意し、高温部には決して触れないようにしましょう。
- ✓ 電源を切った後でもすぐに温度は下がりません。特に子どもがいる家庭では、使用後のヘアアイロンが冷めるまでの間は置き場所にも十分注意しましょう。

